

## 平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	沖縄県立看護大学				
取 組 名 称	島嶼環境を活かして学ぶ保健看護の教育実践				
取組学部等	看護学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A21092	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	専門基礎	ICT		地域活性化	
キーワード	島嶼環境, 保健看護, ICT, 地域活性化, 超高齢社会				

### <選定理由>

多くの島嶼からなる沖縄県における教育では、島嶼における保健と看護を適切に位置づけることが必要である。このプログラムは、那覇市にある沖縄県立看護大学が、離れた島嶼部に学生を連れていき、島嶼地域での保健と看護を体験させることを目的とするもので、地域における大学の役割と保健と看護のあり方をよく考慮した優れたものである。その実施のため、大学と地域医療施設との連携が事前に準備され、また、ICTの活用も図られている。学生は、このプログラムに参加することによって、当該地域での保健と看護の問題を敏感に意識する機会を得ることができるだけでなく、それぞれの地域のもつ衣食住やなどの文化と医療の関係を考える機会も得ることができる。

今回は交通、通信、規模の観点から、宮古島が実習の場選ばれているが、将来は、より小さなコミュニティーやより離れた地域での問題に学生の目を向けさせるために、プログラムを拡大、発展させることが期待される。

取組の概要【1ページ以内】

沖縄県は、わが国の最南端に位置し、東西約1,000km、南北約400kmの広大な海域に160の島々が点在する島嶼県である。このうち、沖縄本島を除く有人離島は39島である。これら離島は、県土面積の45.2%を占め、県総人口の約10%の約13万人が生活している。最近の平均高齢化率をみると、県全体の約15%に対し、離島町村平均は約24%の超高齢社会である。

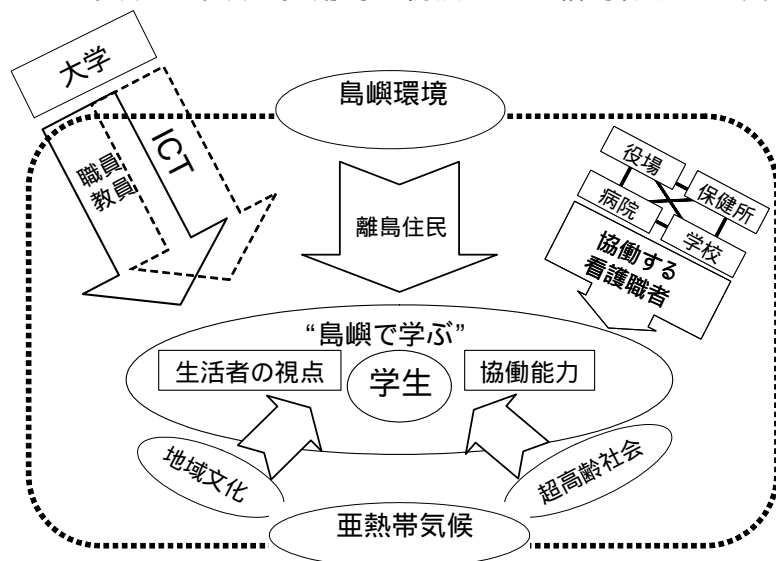
島嶼は、亜熱帯気候で美しい珊瑚礁の海に代表される豊かな自然、伝統文化やゆったりした生活空間を有している。一方、その地理的および自然的条件などから医療・福祉等の生活環境面で低位にあるほか、情報通信の基盤整備の遅れ、若年層の慢性的な流出による人口の高齢化の進行など多くの課題がある。

本学は島嶼県に存在することから、島嶼における保健看護（“保健看護とは、広く個人、集団を対象にし、健康現象を生活との関連で文化的枠組みの中でとらえ看護的支援を行うこと”）を継続発展させることを最大の地域貢献として位置づけ、開学以来9年間にわたり教育・研究・実践を展開してきた。本学の使命は、沖縄の地理・歴史・文化、看護を取り巻く今日状況および社会的要請、またグローバル時代の健康上のニーズおよび学生の学習上のニーズを踏まえて、看護を科学的に実践できる質の高い人材を育成することである。

そこで、全国に先駆け超高齢社会を迎えている沖縄県の離島を教育・学習の場と位置づけ、1年次から4年次まで体系的に臨地実習を展開することで、生活者の視点と協働能力を育み、本学の使命を踏まえた“島嶼で学ぶ”の教育方法の改善に取り組むものである。

本取組では、島嶼の住民（民泊ボランティア、語り - 高齢者の新たな役割）や、病院、保健所、学校、役場などで協働している看護職者が大学教育に参画（実習指導、看護退職者による移送ボランティア）することが地域活性化の促進につながると考えている。さらに、本学大学院の遠隔講義で実績のあるICT環境を学部教育においても整備・構築することにより、大学と島嶼環境とのアクセスを改善し、臨地実習前・中・後のテレ・コミュニケーションの実践が可能となる。これらの改善を踏まえ、人々を生活者として理解するために、1年次の“見る・聴く・語る”実習から2年次～3年次の多角的な視点から“相対化する”実習へと展開し、地域に根ざした保

健看護活動の基盤となる協働能力の必要性を理解させることが期待できる。さらに最終学年では、科学的な問題解決に主体的に臨む「統合実習」ならびに「卒業論文」へと自らの学びを統合していく教育方法を完結することで、島嶼環境を活かして学び、超高齢社会における看護の教育実践モデルを示すことができると考えている。



島嶼環境を活かして学ぶ保健看護の教育実践